

報告：原発問題をめぐる全体状況

＠第74回脱原発八千代ネットワーク定例会

2018年10月27日 川井康郎

1. フクシマの状況

- (1) 約90万トンのALPS処理水のうち約75万トンにトリチウム以外の放射性物質が排出基準値を超えて含まれていたことが判明。10/1に東電より報告がなされた。海洋放出案の前提そのものが誤魔化されていた。
- (2) 11月から開始される予定であった3号機の使用済み燃料取り出し作業は、燃料取扱い機とクレーンの不具合により年明け以降に延期と。
- (3) 東電刑事裁判は、10/16より被告人質問を開始。津波対策を先送りにした旧経営陣（武藤VP、武黒VP、勝俣会長）の業務上過失致死傷の罪を問うもの。

2. 原子力規制と再稼働の動き

- (1) 現在の稼働原発は7基（大飯③④、高浜④、玄海③④、川内①②）。
- (2) 広島高裁による伊方原発の運転差し止め仮処分（2017.12）取り消し（9/25）に続いて、9/28大分地裁も運転差し止め仮処分申請を却下。いずれも、「危険性は社会通念上の許容範囲」と！！
- (3) 東海第二原発は9/26に新規規制基準適合を最終決定、10/18に工事計画を認可。残る40年超の延長認可は審査期限の11/27までになされる見込み。
- (4) 10/22海野那珂市長は取材に「事故が起きれば大きな被害をもたらす。市民の命を守るのが行政の最大の使命だ」と述べ、再稼働に反対する意向を明らかにした。那珂市は日本原電と東海第二の事前了解権を持つ地元6市村のうちのひとつ。
- (5) 10/25東北電力は女川1号機の廃炉を決定。これで、3・11以降に廃炉が決定したのは、女川①、福島第一①～⑥、福島第二①～④、敦賀①、美浜①②、大飯①②、島根①、伊方①②、玄海①の20基。東海、浜岡①②の3基はそれ以前に廃炉決定。

3. その他のトピックス

- (1) 10/13以降、発電過多のため九電は立て続けに太陽光発電の出力制御を実施。ベースロード電源としての原発（4基稼働）を優先しているため。
- (2) IEA（国際エネルギー機関）によると、2017年の世界の原発投資額は前年比で45%減の170億ドルと。脱原発へのシフトが進んでいる。



<以上>